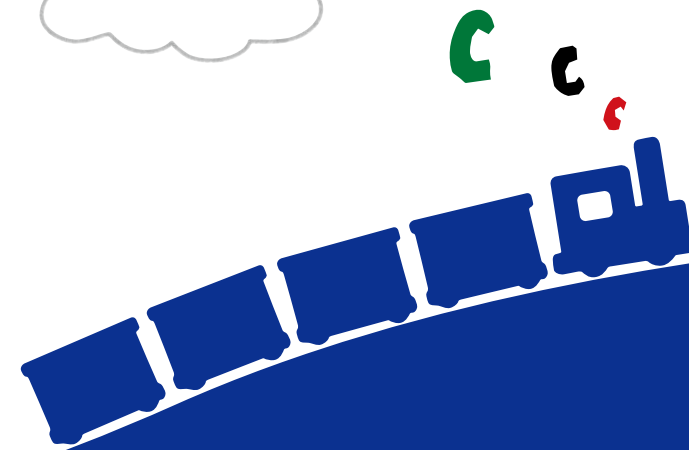


2014

CCC 活動報告書



愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)



2014年度CCC活動報告書
発行日: 2015年5月
発行: 愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・ コラボレーションセンター(CCC)とは

国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいなど
互いの違いを正しく知り、
生かし、生かされ合う存在だと認めて生きる――

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」
に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・
コラボレーションセンター(CCC)は、「地域
に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の
実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を
支える「支援」に取り組んでいます。

学生一人一人、輝く個性や未来を拓く力を
持っています。その大きなパワーを地域での
「体験」や「実感」を通して引き出すのが、C
CCの役割。学外のさまざまなコミュニティと
の連携を強め、地域社会と大学の活性化を図
ること、そして、これから社会へ羽ばたく学
生たちの視野を広げ、人間力や社会人基礎
力、生きる力を育むことをめざしています。

CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学
生は、さまざまな人と交流を深めながら共
に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現
に向けた新たな風を次々と起こしています。



センター長就任の挨拶



コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 大塚 英揮
(ビジネス学部 教授)

僕らが普段「絶対」だと思い込んでいる価値観は、無数に
存在する選択肢の中のただ1つでしかありません。それと同
時に、僕らが普段「何気ない日常」を送っている世界も、実は
広大に広がっている世界の中のほんのごく一部でしかない
のです。

多様な価値観の存在に触れ、大学の外に広がる広大な世界
に関する知見を得るために、時間をふんだんに使うことがで
きる。それこそがまさに「若さの特権」なのだと思います。

愛知淑徳大学に学ぶ学生のみなさんが、その「若さの特権」
を活かし、最大限の「学び」を得られるよう支援することを目的
とするCCCのセンター長に2015年度から就任することにな
りました。

ゼミナールの中で、商店街や自治体、企業との産学協働を
推進してきた経験を少しでも活かし、「学生たちの想いを地域
へ広げ、大きな花として咲かせる」活動をより一層盛り上げ
るために微力を尽くす所存です。

2006年にCCCが開設されてから8年。多くの学生が地
域での活動に主体的にチャレンジするようになりました。
2014年度に学生たちが取り組んだ地域の様々な活動と、そ
れを通じて得た「学び」を振り返るとともに、学生たちの熱い
「想い」を感じ取ってもらいたいという願いを込めて、このたび
本冊子を刊行する運びとなりました。

本冊子にまとめられた様々な「活動」を通じ、学生たちに
貴重な学びの場をご提供いただいた地域の皆様、企業、団体、
行政の皆様には、深い感謝の念でいっぱいです。いつも本当
にありがとうございます。そして今後ともご指導、ご協力の
ほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

目次

[2014年度 特別報告]

―持続可能な社会へ CCC の歩み	4・5
1. 2014年度 活動実績	6
2. 登録団体へのアンケート 結果報告	7
3. CCC の取り組み	
3.1. 教育	8・9
3.2. 支援	10
(1) ボランティア活動のコーディネート	11
(2) 企画及び学生活動等のコーディネート	12・13
(3) 学内助成事業「チャレンジファンド」	14・15
4. 学生スタッフの活動	16・17
5. ボランティア募集を希望される方へ	18

一持続可能な社会へCCCの歩み

2014年は、名古屋市で「持続可能な開発のための教育（以下、ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催された「ESDイヤー」でした。CCCでは2006年の開設当初から、環境問題を中心としたESDに取り組んでいます。

その歩みと、2014年度に開催した「ESDサロン」について、ご報告します。

2006

授業

コミュニティ・サービラーニング(P.9参照)

まちづくり



2007年度から、長久手市役所や市民団体と協働し、世界共通のアイコン（絵文字）を活用した環境マップ（グリーンマップ）づくりに取り組んでいます。

2009年度からは、長久手市内

の小学校とも協働し、3年間かけて全ての小学校区通学路のマップづくりを行いました。また2011年度からは、地域住民にも呼びかけ、市内を流れる香流川流域のマップづくりを行っています。

私たちは住民の皆さんと、街の宝物を再発見し暮らす街への誇りを感じながら、毎年この事業を続けています。

食と環境



2013年度から、名古屋市農業センター（天白区）と連携し、地域の農業振興や環境問題への意識向上のためのモノづくり挑戦しています。地産地消レシピや廃棄される食物を使

った日用品の開発、農業体験ワークショップのデザインなど、学生たちのアイデアは様々です。環境問題に関する知識を獲得するだけでなく、地域に出かけて実践する体験を通して、よりよい食生活や環境保全の取り組みを自ら実践できる力を育むことを目指しています。

2014

自主活動団体も発足！

授業や学生スタッフの企画に影響を受けて、環境問題に関する学生団体も多数生まれました。

【例】

- ・国産間伐材（木・竹）の利用促進
- ・田植え事業から学ぶ食に関する啓発事業
- ・地域と継続的に行う清掃活動
- ・子ども対象の環境教育事業



知多市での竹林整備活動
（学生団体エコのつぼみ）

CCC学生スタッフによる自主企画

2010年 HACHIスクール



生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の開催を受け、ミツバチの大量死をテーマにワークショップを展開しました。

2011年 環境見本市



廃食油を再利用してのキャンドルづくりやクイズを通して、水質汚染について発信しました。

2012年 環境サロン



愛知県から海外、地球規模の環境問題までをシリーズで学習しました。

2013年 ESDカフェ



環境に優しい調理の実践と、フランス・インドの環境政策について意見交換しました。

2014年度 CCC学生スタッフ企画「ESDサロン」

ユネスコ世界会議が11月に開催されることを受け、CCC学生スタッフ（P.16参照）たちが企画しました。

持続可能な社会やアクションは何かを共に学び合い、発見し、自分のアクションへとつなげました。

報告 交流文化学部4年 瀧 亜紗美

ESDサロンを企画したきっかけは「もっと多くの学生にESDについて知ってもらいたい！」という想いでした。ESDはどこか遠いところではなく、自分の身近にあるものです。未来のために今何をしたらいいのかを考え、行動できるよう、地域の方々と共に学び、考える。そんな時間を共有したいと企画しました。

各回テーマを設け、意見を交わしながら、ESDについての学びを深めていきました。実際にESDに関わる活動をしていらっしゃる方をゲストに迎え、交流を深めました。はじめはどのくらいの学生が興味を持ってくれるか不安でしたが、多くの学生が参加してくれ、充実した時間を過ごすことがで

きました。

ESDサロンを通して出会いがあったり、発見・学びを得たり、自分自身について考えてみたり、何かに気が付いたり…学生にとって持続可能な社会に向けて、何か新しい一歩を踏み出すきっかけになったかを感じています。ESDは、きっかけさえあれば、どんな人でも「未来を考えて、行動すること」ができ、アクションを起こすことができます。

参加してくれた学生一人一人が「私にとってのESD」をはっきりと思い描くことができたように思います。多くの学生の心にESDの種まきができたこと、そして持続可能な社会に向けた芽が出て大きく育っていくことを願っています。

第1回 国際

～フェアトレードを通じて世界を感じよう！～



自分と地域、自分と世界の繋がりを、フェアトレードをキーワードに考えました。

第2回 地域おこし

～設楽町ってどこだろう？ 地域を知ろう！～



地域おこし協力隊の皆さんと、自分の地域の「今」と住みたい地域の「将来」について話し合いました。

第3回 防災

～未来のために、今、考えよう。これこそESD～



実際に避難体験を行い、自分たちにできる最善の防災対策とは何かを考え、発表しました。

第4回 多文化共生

～様々なひと・ものが共に生きるって？～



障がいを抱えながら前向きに働く卒業生をゲストに迎え、違いを認めることについて考えました。

第5回 まとめ&発表

～あなたにとってESDって？～



それぞれの「持続可能なアクション宣言」を発表。未来への決意を共有しました。

世界会議に関するボランティアにも参加！ ESDサロンで報告しました



ESDあいち・なご子ども会議や、代表団のアテンド、会場の運営など、約20名が活躍しました。

開設以来、学生たちは、授業・自主活動と、様々な形で活動を行ってきました。

それぞれの場所で学んだ学生たちがCCCに集い、意見を交わしながら、学び、感じたことを共有します。そして、他の学生たちから得た知識と知恵を胸に、また現場へと帰っていきます。地域から世界へ、世界から地域へと学生たちの歩みが止まることはありません。持続可能な社会へ向けて！

1 2014年度 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 2,748名(本学学生の約31%)
利用者数 延べ17,742名
(前年比24%増)

登録 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者 情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティング等で来室する学生

募集型ボランティアへの参加者数* (分野別)

年度	国際交流・協力	青少年	まちづくり	福祉	環境	その他	計
2014年度	195	261	200	276	94	183	1,209
2013年度	158	293	171	141	116	318	1,197

※CCC登録団体から募集があったボランティア活動に、CCCを通して申込み・参加した学生を指す。学生による自主活動(P.12参照)の活動者数は含まない

●受託事業

- ・リニモ沿線地域づくり活動事業 (委託者:愛知県)
- ・グリーンマップ作成プロジェクト(委託者:長久手市)
- ・名東区人権尊重のまちづくり事業 (委託者:名古屋市長久手市役所)
- ・男女平等パートナーシップ事業(委託者:日進市)
- ・子ども国際理解教室 (委託者:日進市)

●メディア掲載情報 (抜粋)

2014年5月21日	中日新聞	学生団体「DoNabe Net In あいち」が地域を結ぶ鍋パーティー実施
2014年7月15日	中日新聞	日進市委託事業「パパ応援講座」が父親向け子育て支援イベント実施
2014年7月15日	中日新聞	「いまドキッ!大学生」コーナーにてセンター紹介
2014年8月16日	中日新聞	学生団体「My リニモ & My タウン」がリニモ沿線活性化事業における助成団体に選定
2014年8月17日	中日新聞	学生団体「せとしん」が瀬戸信用金庫と連携し二セ電話詐欺啓発のラジオ番組を制作
2014年8月30日	朝日新聞	学生団体「りんく」が白金児童館と連携してイベント「こどものまち」実施
2014年9月23日	中日新聞	学生団体「きらきら☆したら」が設楽町で五平餅作り修行
2014年10月8日	メ〜テレ	学生団体「名古屋コーチンもり上げ隊」活動紹介
2015年1月24日	中日新聞	学生団体「Na-Gomi」がデザインした長久手市ごみ減量活動イメージキャラクターの愛称決定
2015年2月5日	中日新聞	学生団体「チームわんわん」が長久手市立東小学校にて介助犬に関する特別授業を実施
2015年2月15日	中日新聞	学生団体「ちびっこクローバーズ」が企画運営したイベント「こどものまち」紹介
2015年3月3日	MID-FM	「次世代エネルギーワークショップ」参加学生による報告

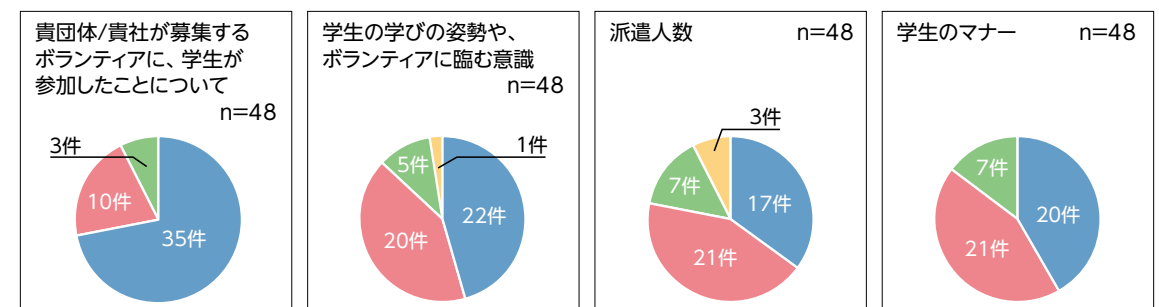
2 登録団体へのアンケート 結果報告

学生の活動状況の把握と、CCCのサポート体制の改善に向けて、日頃お世話になっているCCC登録団体へアンケートを行いました。
その結果の一部を、ご報告いたします。

- (1) 調査対象 CCC登録団体の内、「CCC活動報告書2013」を送付した177団体 (NPO法人42件、自治体37件、社会福祉法人36件、その他62件)
- (2) 調査方法 郵送法(郵送配布—FAXまたはメールにて回収)
- (3) 調査期間 2014年6～8月
- (4) 回収率 40%(177件中71件)

●調査結果

■大変満足 ■満足 ■普通 ■やや不満 □不満



掲載したコメント (一部)

- イベントのお手伝いの際、参加者の方に積極的に話しかけるなど、盛り上がるよう進んで動いてくださり、助かりました (自治体)
- 障がい児を学ぼうとする向上心を感じます。これからも当会が、学生の学びの場となれと思っています (社会福祉法人)
- 学生さんの積極的な意見がもっとたくさん出ると嬉しい (NPO法人)

●考察

いずれの質問項目やコメントでも「大変満足」「満足」という回答を多くいただきました。

しかし、「派遣人数」「学生のマナー」については満足度がやや低く、下記のようにご要望もいただきました。今後も、学生への指導や支援を通して改善を続けてまいります。

ご 要 望	改 善 策
電話やメールで連絡を取る際など、基本的なビジネスマナーを守ってほしい	→ ・メール文例や参考書籍を配架 ・申込時に、「ボランティア活動に参加するにあたって」と題した心得を配布し事前指導を徹底した
一度きりの参加で終わることなく、継続的に活動に参加してほしい	→ ・活動を通しての感想や学びを記入する「ボランティア活動振り返りシート」を導入し改善した ・スタッフは、参加学生と活動内容を共有すると同時に、継続参加を促していく

ご協力いただいた登録団体みなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。

3 CCCの取り組み

3.1 学生の実践力を育む

「教育」

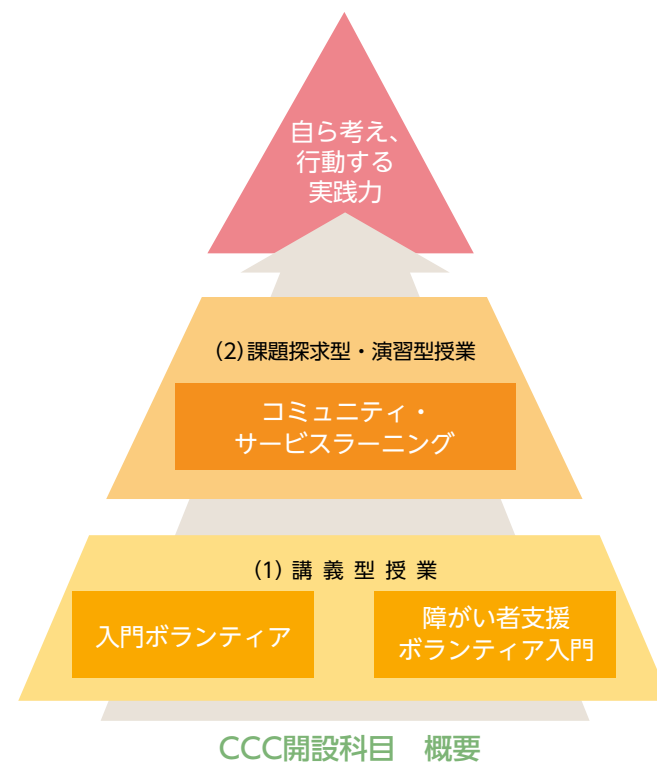
CCCでは、地域や社会と共に行う社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう、「CCC開設科目」を開講しています。

講義型授業「入門ボランティア」「障がい者支援ボランティア入門」では、ボランティアについての基礎知識やスキルを身につけることはもちろん、地域社会の人々と積極的に関わることができる数多くの体験学習を取り入れています。

さらに、次のステップとして位置づけられる、課題探求型・演習型授業「コミュニティ・サービスラーニング」では、5つのテーマに基づき、具体的な地域活動に取り組みます。

こうした授業を通して地域や社会へと一歩を踏み出した学生は、自ら考え、行動する実践力を高めていきます。

地域や社会と共に活動する
第一歩を後押しし、
自ら考え、行動していく実践力を
豊かに育みます。



(1) 講義型授業 ～ボランティアの意義を学ぶ～

●入門ボランティア

小島 祥美 先生・橋本 吉広 先生

ボランティア活動実践者も迎えながら、ボランティアの「魅力」及び「役割と意義（地域が抱える課題）」を考えました。また、長久手キャンパスでは、グループワーク（ワークショップ形式）による講義を中心に、受講者全員がボランティア活動に参加する実践活動も行いました。

●障がい者支援ボランティア入門

黒川 文子 先生

視覚や聴覚、肢体に障がいがある人についての基本的な理解と、初歩的な支援技術（車いす介助、手話、ノートテイク等）を学びます。授業で学んだ内容を実際のボランティア活動に結びつけ、共に生きる社会を目指して私たちにできることを考えました。

(2) 課題探求型・演習型授業

●コミュニティ・サービスラーニング ～体験を通じて実践力を養う～

I まちづくり／小島 祥美 先生

行政と協働し、世界共通のアイコン（絵文字）を活用した環境マップ（グリーンマップ）づくりを企画・運営しています。今年度は、長久手市立東小学校に通う子どもたちと一緒に、香流川流域を廻りました。これらの実践活動を通じて、地域が抱える課題と、私たちが参加できるまちづくりの在り方について考えました。



II 企業のCSR活動／出原 遠宏 先生

CSR（企業の社会的責任）の仕組みを学ぶと共に、学外での実践活動を通してその重要性を体得します。2014年度は、岐阜県郡上市で行われたブラザー工業株式会社の植林活動へ参加した他、「愛知淑徳大学のSR」に関する提案をしました。



III 地域メディア実践／小早川 真衣子 先生

地域に寄り添うメディアのあり方やその役割、自分たちの関わり方について体験的に学びます。2014年度は、人権尊重まちづくり事業に参画し、名東区で活躍する人々への取材と紙媒体の制作・発表を行いました。



VI 日本語学習支援／日置 陽子 先生

日本語学習支援（地域の日本語教室等）の役割や方法を学び実践することを通して、在住外国人を取り巻く地域社会や日本語学習支援の現状・課題への理解を深めます。

2014年度は豊田市の日本語教室等と協働し、「災害時の日本語」をテーマとした企画の補助を行いました。



V 食と環境／小早川 真衣子 先生

日々の食事の背後にある仕組みや環境問題の現状を認識して食への意識を高めます。2014年度は、名古屋市農業センターの活用に関する3種類のプログラムのデザインと実践に取り組み、一般来場者への提案・交流を行いました。



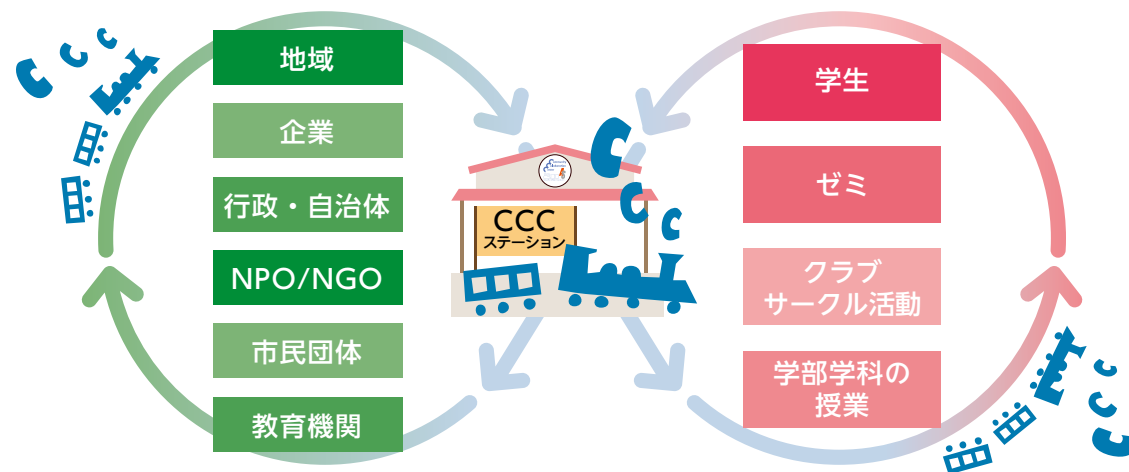
3.2 学生の自主活動を応援する「支援」

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人一人異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生の力を必要としている地域・企業・自治体・NPO・NGO・教育機関との出会いをコーディネートし、学生の想いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。さらに、学生たちが活動中に困

さまざまなコミュニティとの架け橋となり、学生が自ら活動を企画・実践できるようにサポートします。

難な事態や課題に直面したとき、自分自身で答えを導き出せるように、考える力を引き出すサポートを大切にしています。

自主活動に励む学生は課題発見、企画・実践、振り返りによる問題解決のサイクルを体験的に学ぶとともに、新たな出会いへ、新たなチャレンジへと、人と人の輪や自分の可能性を大きく広げています。



「支援」の3つの形

- (1) ボランティア活動のコーディネート 11
- (2) 企画及び学生活動等のコーディネート 12・13
- (3) 学内助成事業「チャレンジファンド」 14・15

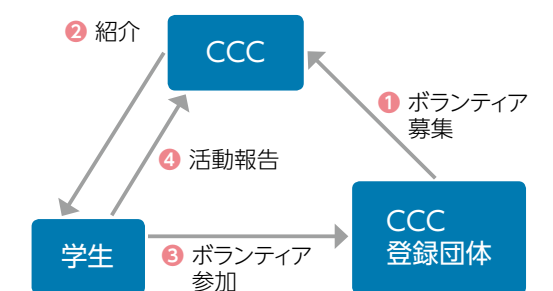
●支援(1) ボランティア活動のコーディネート

自主活動に挑戦する学生の初めの一步として、ボランティア活動への参加があります。

CCCでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、窓口相談などを行っています。ボランティア募集情報は、CCC内での掲示のほか、ひと月に2回、全学生にメール配信しています。

活動分野は、国際交流・協力、青少年、福祉、環境、まちづくりなど様々です。2014年度は、延べ1,209名が参加しました。

ボランティアコーディネートの仕組み



NPO ∞ 学生

小児病棟での バルーンアート交流

連携先：
NPO法人ぶくぶくばーん

初めは、病気を抱えた子どもたちということで、対応の仕方にやや不安を感じていました。しかし、子どもたちとの触れ合いを通して「子どもは病気の有無に関わらず同様に遊び楽しむのだ」ということに、改めて気が付きました。

かけると良い言葉、注意しなければいけない言葉など、勉強することが多くありますが、引き続き活動していきたいと思っています。



夏野菜を制作。キュウリが大人気でした!

福祉貢献学部1年 岩本 里菜

自治体 ∞ クラブ

のろし上げ体験 イベント

連携先：設楽町役場

設楽町に赴任している地域おこし協力隊のみなさんと、スマートフォン世代の子どもたちに昔の人の知恵と工夫を知ってもらおうと「のろし伝言ゲーム」を行いました。

このボランティアをきっかけに設楽町の魅力に惹かれ、所属する日本歴史研究会として年間通じて訪れることに決めました。今後も活動を通して、設楽町や昔の文化について伝えていけたらと思います。



「のろし」はドラム缶を使って上げました

人間情報学部1年 鏡山 裕磨

地域 ∞ 学生

高齢者の外出サポート

連携先：
デイサービスセンター極楽苑

施設近くのスーパーへの買い物に同行しました。

本や『障がい者支援ボランティア入門 (P.8)』で学んだ、車いすの扱い方や移動する際の声掛けの大切さを、実際に活かすことができて良かったです。

このボランティアを通して、「知識」があれば誰かの手助けができるということに気が付き、それを得ておくことの重要性を改めて感じました。



施設利用者さんとお話の様子

心理学部1年 古川 亮

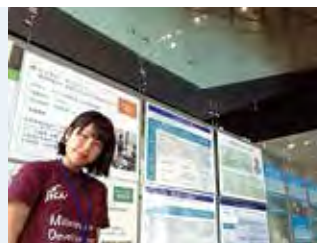
行政 ∞ 学生

なごや地球ひろば ボランティア 地球案内人

連携先：JICA中部

JICA中部内「なごや地球ひろば」にて、展示の案内や、イベント運営などのお手伝いをしています。

共に活動するのは、元青年海外協力隊員など多様な経験を積んだ皆さん。そんな方々と話をするうちに、以前は「やってみたい!」と思って行動に移せなかった私が、「まずは挑戦してみよう!」と主体的に行動できるようになりました。これからも様々なことに挑戦していきたいです。



案内しているパネルの前で

交流文化学部2年 細野 優

●支援(2) 企画及び学生活動等の コーディネート

多くの学生が、ボランティア活動への「参加」に留まらず、社会貢献に関する企画を練って自主的に活動しています。

現在、CCCを基盤に自主活動を行っている学生団体は、約30団体。そのほとんどが、地域の市民団体・福祉施設・企業等と連携して活動しています。

CCCでは、ミーティングや報告会の会場提供、備品の貸し出しなどの後方支援はもちろん、活動に関するアドバイスをすることで、地域団体との連携をサポートしています。



ミーティングの様子



自主企画「手話 DE ランチ」



自治体 ∞ 学生

ながくて大学生ごみ減量プロジェクト 「Na-Gomi (なごみ)」



2015.1.23 市長報告会

私たちは、長久手市役所くらし文化部環境課と協働して、大学生や子育て世代が多く住む長久手市において、市民によるごみ減量プロジェクトの活性化を目指して2013年度より活動しています。

2014年度は、その意識啓発に向けて、ごみ問題を身近に感じてもらうためのエコキャラクター

長久手市役所くらし文化部環境課 高野 至庸 様の声

「ごみ」と聞くと、良いイメージが浮かばないと思います。汚くて、臭くて、分別も面倒。そんなごみ問題に真剣に取り組む「Na-Gomi」メンバーの姿に感心すると共に、大学生ならではの意見や新しい発想を聞くことができ、月に1度のミーティングを毎回楽しみにしています。

ごみ減量キャラクターの完成はゴールではなくスタートです。今後も大学生ならではの発想と一緒に長久手市のごみ減量を目指しましょう！

制作しました。愛称を一般公募したところ全国から219通もの応募があり、その中から「あすりー」と「すいっとり」と名づけ、吉田一平長久手市長にも報告しました。

メディアプロデュース学部4年 山田 佳苗

地域 ∞ 学生

ちゃっちる (Challenged Children)



2014.10.25 ハロウィンパーティー

私たちは、障がいのある子もない子も、共に交流する機会を提供したいという思いで活動しています。今年度は「日進市制20周年記念市民公募事業補助金」の交付を得て、日進市内各所にてアイスクリームづくりや、豆まき大会を開催しました。

実際に活動することで、私たちの活動は障がいのある子とない子の両方にとって、互いを理解するために意味のあるものだ、と自信を持ちました。

参加した当日ボランティアの声

- 障がいのある子どもと関わることに不安を持っていたが、一緒に、また自然に楽しむことができた。(福祉貢献学部1年)
- 子どもたちの笑顔が見られて、嬉しかった。(福祉貢献学部3年)
- これをきっかけに、他のボランティア活動にも挑戦していきたい。(交流文化学部1年)

例えばハロウィンパーティーの際、カボチャの帽子を作る中で、子ども同士が装飾用のテープを譲り合って使う姿や、お互いの帽子を見て声を掛け合う様子が見られた時、子ども同士で自然に交流していく可能性を感じることができました。

今後はまず、日進市の事業所に通う子どもに向けた企画を実施したいです。今年の経験で得た「交流できる場」「きっかけ」「サポート」づくりという学びを工夫・発展させながら、活動を継続して行っていきたいです。

福祉貢献学部3年 磯村 絵理

地域 ∞ セミ

Myリニモ&Myタウン

私たちは、2005年に開催された「愛・地球博」に合わせて開業した「リニモ」並びに周辺地域の活性化を目指して活動しています。今年度は、愛知県などが募集する「リニモ沿線地域づくり活動支援事業」の助成を受け、下図の2つの事業を実施しました。

この活動を通して私は、「人を巻き込むチカラ」や「臨機応変に対応するタイムマネジメント」を学ぶことができました。今後は、定期的にイベントを実施し、リニモとの関わりが少ない人々にもリニモの存在を広めていきたいと考えています。

ビジネス学部3年 金地 祐季、近藤 康平

リニモおもちゃ箱計画

愛知県内の小・中学生から、リニモ車内デザイン案を募集。169件の応募があり、受賞作のデザインを基にリニモ車内を手作りで装飾。実際に走行もさせました。

リニモ駅ナカショップ

リニモ駅構内のスペースを利用して、3月の週末の4日間、地域のボランティア団体によるブースや、「リニモおもちゃ箱計画」の応募作品の展示等を行いました。

愛知県地域振興部地域政策課 辻村 欣也 様の声

リニモおもちゃ箱計画に寄せられたリニモ車内デザイン作品は、子どもたちの思いが込められたものばかり。学生の皆さんは春休み返上で準備に取り組み、子どもたちの想いに応えてくれました。

また、駅ナカショップでは、地域の方々との交流や地域情報の発信など、地域の賑わいづくりに大いに寄与していただきました。この活動をきっかけとした新たな地域との「つながり」を今後も大事にしてほしいと思います。



2015.3.15 リニモおもちゃ箱計画

●支援 (3)
学内助成事業「チャレンジファンド」

CCCでは、学生によるさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや想いに応える活動や、社会貢献性の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成を行っています。

2014年度からは、「スタートアップ部門」を新設。公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、15団体が採択され、地域でそれぞれの活動を展開しました。



2014年度助成団体 一覧

	団体名	分野	活動内容	連携先
スタートアップ部門	Amigo!	青少年育成 国際	外国にルーツのある子どもたちの交流	NPO まなびや@ KYUBAN
	共同料理なごやか	福祉	高齢者や学生の孤食解決と地域交流	名古屋市名東区社会福祉協議会 市が洞地区自治会
	ちびっこクローバーズ	青少年育成	子どもを対象にした模擬社会体験	NPO 法人コラボキャンパス三河
	つながり making	地域貢献	防災対策としての地域間交流の促進	名古屋市北区社会福祉協議会、公益財団法人名古屋 YMCA
	ほし☆ちる	青少年育成	大学での学びを子どもたちへ伝える活動	名古屋市白金児童館 名古屋市小村児童館
一般部門	国際協力研究会	国際	Table for Two の普及啓発	日進市岩崎台・香久山福祉会館 愛知淑徳大学 食堂
	はぴ♡ばる	青少年育成 福祉	バルーンアートを使った地域交流活動	社会福祉法人ポレポレ 他
	コミュカフェ	地域貢献 福祉	福祉施設のイメージ変化を目指した交流会の開催	レスパイトハウスやさしいところ
	ASU への FunFair	国際	愛知淑徳大の学生に向けたフェアトレード普及啓発活動	名古屋市内のフェアトレードショップ
	ヘルパーサークル あじゅあす	福祉	福祉施設でのボランティアや自主イベントの開催	障害者支援施設 森孝しぜんかん 青年教室、社会福祉法人ポレポレ 他
	福祉貢献学会 地域密着班	福祉	健常者と障がい者の交流の機会づくり	子ども発達支援センターすくすく園 日進市社会福祉協議会 他
	☆キャンウインド アンサンブル	福祉	福祉施設等での訪問演奏	ケアセンターまほろば 他
	ASU MAKER	青少年育成	ぬいぐるみ制作を通して子どもを笑顔にする	鶴舞小学校トワイライトスクール 他
	まちの映像館	地域貢献	映像を切り口とした交流会の実施	名古屋市立大学映画制作団体「映像によるまちづくり」
	Fsus 4	福祉	福祉施設等での訪問演奏	社会福祉法人愛知たいようの杜 他

2014年度採択団体のうち、2団体の活動を報告します。

つながりmaking

私たちは、地域・行政・NPOをつなぐ団体として、防災意識の啓発、非常時に助け合える関係(つながり)づくりに取り組んできました。地域住民に防災意識があまり根づいていない様子や行政各所の連携が少ないという実態に気づいたことなどが、活動のきっかけです。

行政の方々を対象にしたワークショップや防災意識を喚起する非常食づくりイベントなど、複数の企画を実施してきましたが、中には、活動を通じて出会った方々から声をかけていただき、参加したものもあります。活動で得た出会いをまた新たな出会いにつないでいくことで、活動がより充実したものになったと思います。

また、活動するなかで、学生の防災意識の低さやメンバー自身の身近な物事に関する知識不足に気づき、知識や情報を持つ方々と交流する必要性を改めて感じました。今後も、つながった方々との出会いを忘れず、地域に貢献できるよう活動を続けていきたいです。

交流文化学部3年 伊藤 里奈



2014.6.8 あいち・なごやESDフェスタ



ちびっこクローバーズ

私たちは、子どもたちの自主性や協調性を育むことを目的に、子どもたちが自らの手で街を創る「クローバーズタウン」というイベントを企画運営しました。仮想の街とはいえ、労働・納税・選挙・協働作業など実社会に即した体験ができるようになっており、イベント中も、周囲に配慮して行動したり、街のために率先して働いたり、子どもたちが成長していく様子が見られました。子どもたちの自由な発想に触れ、私たち学生にとっても勉強になりました。

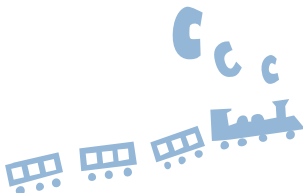
イベント開催にあたっては、企画立案、進行スケジュールの策定、会場レイアウトや装飾物制作などを効率よく進めていく術を学びました。また、運営に協力してくれた学生たちとの交流も、この活動から得たものの一つです。

次なる目標は、参加者200名と規模を拡大した「クローバーズタウン」の開催です。メンバーの多様なアイデアを取り入れ、私たちならではのイベントにしたいと思います。

ビジネス学部3年 中西 亜実



2015.2.8 第2回クローバーズタウン



4 学生スタッフの活動

CCCは、さまざまな想を持った多くの学生が集まる場所となっています。学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の想いをかたちにする重要な役割を担っています。

「学部はどこ?」「ボランティアは初めて?」などの会話から、一人一人の個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく、自ら企画なども行い、自分たちの活動の幅を広げています。



■星が丘キャンパス

写真左から

飯田 諒子(交流文化学部2年)
工藤 大輝(ビジネス学部3年)
望月 智加(交流文化学部3年)
瀧 亜紗美(交流文化学部4年)



■長久手キャンパス

写真左上から、時計回りに

北垣かなえ(文学部4年)
安藤 佑哉(人間情報学部3年)
石塚 千夏(文学部2年)
浅井 里美(福祉貢献学部2年)
磯村 絵理(福祉貢献学部3年)
松岡 咲希(福祉貢献学部3年)



2014年度の主な活動

日付	行事名	日付	行事名
4/1	ニューズレター「コラボ通信」発行(他2回)	10/24～	ESDサロン ※P.5参照 (全5回)
5/21	【星が丘キャンパス】しゃべりバ! (他2回)	11/9	日進市主催「にっしん市民まつり」ブース出展
7/6	㈱デンソー主催「デンソーグループハートフルまつり」ブース出展	2/28	名古屋市主催「ぼらマッチ」ワークショップ実施
7/1～4	【長久手キャンパス】CCC報告会week	3/24	CCC学生団体交流会

Report 1 体験型ワークショップ「つながレール」

私たちは、1年間を通して「つながレール」というプログラムを、地域行事や企業の社会貢献イベントなどで展開しました。

CCCを「学生たちの夢を運ぶ『夢列車』」と例えることがあります。このプログラムでは、来場者の方に、列車の車両の形をした紙に「みなさんの夢と思い描く社会・世界」を書いていただきました。

照れながら夢を描いた子どもたち。これをきっかけに、娘の夢を知ったお父さん。子どもから大人、海外の方まで、多くの方にご参加いただきました。

地域に飛び出し、多くの方と交流することで、子どもだけでなく大人も夢を持っている



こと、子どもも未来の社会について考えていることに、改めて気が付きました。

これからも、みなさんの夢列車が繋がって大きく羽ばたくよう、継続していきたいです。

文学部2年 石塚千夏

Report 2 CCC学生団体交流会

2015年3月24日(火)14:00～16:30 星が丘CCC

現在、CCCを基盤にして活動している学生ボランティア団体は、約30団体。その数は年々増加しています。しかし、同じ場所を共有しているにも関わらず、団体間の横の繋がりが少ない、というのが現状でした。

そこで、「学生団体が一堂に会したら、ステキな化学反応が起こるのではないかと」考え、この交流会を企画しました。

当日は、16団体51名が集まり、互いの活動紹介をした後、「団体コラボレーション企画」というグループワークショップを実施。夢のような企画が、7つも生まれました。

会場は「全員と友達になれそう!」と思うほど、温かい雰囲気になりました。また驚くこ



とに、早速コラボレーションを実現させようというペアも生まれました!初の試みでしたが、もっと交流したい!という声もあったので、ぜひまた実施したいと思います。

福祉貢献学部2年 浅井里美

学生スタッフ編集「コラボ通信」

「コラボ通信」は、本学学生と教職員を対象に配布するニューズレターです。

2014年度は3号を発行。新入生やボランティアに参加したことがない学生たちに、CCCやボランティアをより身近に感じてもらうと、テーマを決めて作成しました。



第41号
あなたにとってCCCとは?



第42号
あなたにとってのボランティアとは?

5 ボランティア募集を希望される方へ

CCCでは、ボランティア募集情報の学生への公開に際して、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

初めてボランティアを募集される場合は、まず以下をご確認いただき、お電話でご連絡ください。

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター ボランティア情報の取り扱いに関する方針

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（以下、「CCC」と表記します）では、以下の方針に基づき、NPO/NGO、民間団体等（以下、「団体」と表記します）のボランティア情報（地域・市民活動）を紹介します。

1 対象となるボランティア活動

- ① 公益性・公共性が高い活動
- ② 営利を目的としない活動
- ③ 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った活動
- ④ その他

・団体例は、次の通りです。

ボランティア民間団体（NPO/NGO）、社会福祉法人、学校法人、社団法人・財団法人等の非営利法人、社会福祉施設・社会教育施設・その他公共施設、企業など。

2 受付できないボランティア活動

- ① 政治的、宗教的活動を目的とする活動
- ② 危険が伴う活動
- ③ 人体に有害な活動
- ④ 法令に違反する活動
- ⑤ 公序良俗に反する活動
- ⑥ その他、CCC運営委員会の審議の結果により不適当だと判断された活動

3 団体との申し合わせ

団体とCCCとは、以下の点を申し合わせ事項とさせていただきます。

- ① ボランティア活動に参加する学生に対し、各団体が活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意の上、活動を始めるとします。
- ② 活動をはじめる前には、各団体がオリエンテーション、研修等を実施し、必要な情報や留意点をあらかじめ伝達することとします。

③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととします。

④ ボランティア活動に参加する学生は、あらかじめボランティア保険に加入していることを両方で確認することとします。本学学生がボランティア活動を行った際に、募集の条件と異なる状況が生じた場合、精神的、肉体的苦痛を受けた場合等には、CCCが活動先と調整、苦情申し出等の対応をいたします。

4 免責

CCCで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、CCCでは責任を負い兼ねます。あらかじめご了承ください。

●委員長

ブイ トルン（交流文化学部）

●委員

天野 成昭（人間情報学部）
石坂 綾子（ビジネス学部）
伊藤 昌亮（メディアプロデュース学部）
清瀬 裕子（心理学部）
黒川 文子（福祉貢献学部）
五島 幸一（メディアプロデュース学部）
小島 祥美（文学部）
小早川 真衣子（コミュニティ・コラボレーションセンター）

日置 陽子（コミュニティ・コラボレーションセンター）
宮田 スザンヌ（健康医療科学部）
吉田 敬（健康医療科学部）
若松 孝司（交流文化学部）
和田 恭治 事務室長（コミュニティ・コラボレーションセンター）
小田橋 恵子 前事務室長（コミュニティ・コラボレーションセンター）

●長久手キャンパス

岩瀬 彰子
後藤 誉子
蓮見 真紀子
脇田 夏貴

●星が丘キャンパス

秋田 有加里
杉浦 暁子
安田 なぎ子

2014年度
CCC運営委員

2014年度
CCC職員

